

「SUZUKA "S耐" サバイバル」

鈴鹿サーキットは毎年F1が開催されF1ドライバーが「鈴鹿はおそらく世界で一番難しいコースだ。」
「世界で一番挑戦しがいがある。」という車両の完成度とドライバーの技量が問われるサーキットです。



6月9日金曜日 フリー走行

開幕戦3位、菅生ラウンド優勝でウエイトハンディーを20キロ積んでの辛い戦いになります。そして梅雨に突入り雨が心配された週末です。ウエットだとライバルのFFの車両に有利になります。また、今回はサバイバルレースとなり予選によっては100分レースに参加になりますが金曜日の公式練習は朝のセッションはクラス2位、夕方のセッションはクラス3位と順調なスタートです。

6月10日土曜日 公式予選

予選の朝は快晴。10時からAドライバーの村上が走ります。気温が高いのでタイヤの良いところは一周と思い計測一周目からアタック開始。全開で攻めながらも繊細に走ると言うギリギリの走りが出来て2分31秒60で2位と0.7秒差の1位。Bドライバーの脇谷も2分32秒7のクラス2位で合算タイムでポールポジション獲得です。そして今回は4時間レースと言うことでCドライバーに加藤正将選手が加入して3人で4時間レースを戦います。

予選 ST5クラス 1位

6月11日土曜日 決勝

決勝は雨の予報から曇りに変わり我々に有利な状況です。そして、まさかの快晴で暑いレースになります。12時半から4時間の耐久レースがスタートになります。スタートはAドライバーの村上が担当。スタートでストレートスピードに勝るフィット700号車に1コーナーで刺されてしばらくは様子を見ながら2位を走行。40分経過時点でSCが入り抜群のタイミングで給油のみでコースに復帰して1位、そのまま2時間のスティントをこなして2位と1分のマージンを築き脇谷選手に交代。脇谷選手もタイヤを労わりながら粘りの走行で1時間のスティントを走り切り加藤選手に託します。後は燃費との戦いの中、2位の4号車のフィットとの差を確認しながら4時間を走り切り菅生に続くポールTOウインでした。

決勝 ST5クラス 1位

総括 チームオーナー兼ドライバー 村上

鈴鹿を制する者は世界を制すと言われるくらいに車両の完成度とドライバーの技量、そしてチーム力が試されるサーキットでポールTOウインで勝てたと言うことは本当にロードスターの素晴らしさを発揮でき、自分達の仕事を一人一人が完璧にこなした結果で、全員で勝ち取った勝利です。シリーズも後半戦に突入しましたが自分達らしく焦らず、奢らず、ベストを尽くして走り続けます。そして少しでも多くのご支援を頂きたいと思っておりますので、モータースポーツに興味がある方、企業様がいましたらぜひご紹介ください、よろしくお願いします。

